

1. 科目名 (単位数)	カウンセリング特論 (2単位)	3. 科目番号	SJMP5333
2. 授業担当教員	吉川 晴美		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし	履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	<p>子どもの臨床発達心理学の基礎知識を踏まえ、特に関係的存在である子どもの、様々な場(家庭、園、学校、など)での人間関係を理解し、心理臨床・カウンセリングの理論と方法を学ぶ。</p> <p>本科目では、子どもの人間関係の発達に焦点を当てて、諸時期における子どもの問題への理解を深め、心理臨床的な援助の実践について考察を促し、その方法について学ぶことを目指している。また、発達障害や、児童虐待の問題も取り上げ、その理解を深める。さらに、ロールプレイを行い、子どもおよび保護者とかわる技法を深め、保育・教育実践に応用できるように学ぶ。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発達について、つまり関係性の発達から理解し、説明できる。 2. アタッチメントに関わる発達科学の基礎知識を踏まえて子どもと保護者援助の視点を習得する。 3. 子どもの心理臨床・カウンセリングの理解を深め、保育・教育実践に応用できるように習得する。 4. 保育・教育における発達障害や児童虐待の問題の理解、及び特に配慮が必要な子どもへの専門的な対応について学ぶ。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>テキストの指定された章について、分担して講義を行う。必要に応じて、原著論文に当たって理解を深めたうえで発表すること。また、事例についてはロールプレイなどを行い、その感想・考察などもまとめ、発表する。発表担当者は、担当分の内容をわかりやすくまとめたレジメ2, 3枚を用意してください。担当分の内容に関連する日本の文献を3つ以上調べ、それらの主な内容をまとめたレジメも用意してください。調べた文献そのものも印刷し持ってきてください。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 吉川晴美・松井知子『人間関係の理解と心理臨床—家庭・園・施設・職場の問題解決のために』慶應義塾大学出版会</p> <p>【参考書】 J.ボウルビ『母子関係の理論Ⅰ～Ⅲ』、黒田実郎(訳)、岩崎学術出版社、 E.H.エリクソン『自我同一性』小此木啓吾(訳編)、誠信書房、 D.N.スターン『乳児の対人世界』小此木啓吾(訳)、岩崎学術出版社、 D.オッペンハイム・D.F.ゴールドスミス編『アタッチメントを応用した養育者と子どもの臨床』ミネルヴァ書房、 松村康平「臨床心理学の方法」『臨床心理学』朝倉書店、 J.L.モレノ『サイコドラマ—集団精神療法とアクションメソッドの原点』、 G.A.ロイツ『人生を舞台に—モレノの継承と発展』野村訓子(訳)、関係学研究所、 松村康平『人間関係学』関係学研究所、 杉山登志郎「発達障害の子どもたち」講談社現代新書、 日本関係学会編『関係<臨床・教育>』不昧堂出版、 森則夫他編著『臨床家のための DSM-5 虎の巻』日本評論社、 春原由紀『子ども虐待としての DV-母親と子どもへの心理臨床的援助のために-』星和書店、 セルジュ・ティスロン(著)『レジリエンス:こころの回復とはなにか』阿部 又一郎(訳)白水社</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発達を人間関係の側面、アタッチメントの形成などの点から、また、関係発達の基本を理解し、説明できる。 2. 子どもの心理臨床・カウンセリングの理論と方法を学ぶ。 3. 関係的・多面的な視点から、子どもと保護者支援・援助の方法を検討できる。 3. ロールプレイ・心理劇などを通して、子どもおよび保護者とかわる技法を深め、保育・教育実践に応用できるように習得する。 4. 子どもの問題の解決に向けて、臨床倫理をふまえ、他との連携・協働するあり方ができる。 <p>○評定の方法 文献講読 30% 授業への積極的参加 30% レポート 40%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、文献講読、レポート、ロールプレイなどを通して、活発な意見を交わしあい、共に学びあうことが望ましい。意見を交わすということは、自分の意見を表明するだけでなく、他者の意見の尊重、他者の発言の傾聴も含まれる。 ・発達の過程で、全く問題なく過ぎてきた人は稀であり、カウンセリングを学ぶとき、子どもの発達上の問題について学ぶとき、自らの過去や現在、未来への問題とも向き合い、自己理解、他者理解を深めてほしい。 ・内容の理解や討論の深まりによっては、シラバス通りに進行しない場合がある。 		
13. オフィスアワー	開始時に提示する		
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
1. テーマ	子どもの臨床と人間関係の理解		
	<p>【学習の目標】子どもの人間関係の全般的な理解を測り、本科目の進め方を理解する。</p> <p>【学習の内容】子どもの人間関係と子ども臨床への全般的な理解を測り、基本的知識を定着する。</p>		

	<p>【キーワード】子どもの人間関係、子ども臨床の進め方</p> <p>【学習の課題】子どもの人間関係と子ども臨床の基本的視点について理解し説明する。</p> <p>【参考文献】 吉川・松井『人間関係の理解と心理臨床—家庭・園・施設・職場の問題解決のために』慶應義塾大学出版会 松村康平『人間関係学』関係学研究所、日本関係学会編『関係』、不昧堂出版</p> <p>【学習する上での留意点】子どもの人間関係の知識を深める。</p>
2. テーマ	人間関係の発達について
	<p>【学習の目標】人間の生涯発達と課題、かかわりの発達段階を理解する。</p> <p>【学習の内容】胎児期から老年期までの生涯発達を概観し、その発達の段階と課題、過程を理解する。</p> <p>【キーワード】親の影響はいつ始まるのか：身体的・心理的・社会的発達／持続的影響と社会的影響／生まれるということ</p> <p>【学習の課題】発達に影響を及ぼす諸要因を説明する。</p> <p>【参考文献】 吉川・松井『人間関係の理解と心理臨床—家庭・園・施設・職場の問題解決のために』慶應義塾大学出版会 バーバラ・M・ニューマン、フィリップ・R・ニューマン『新版 生涯発達心理学—エリクソンによる人間の一生とその可能性』福富譲（訳）川島書店、 日本関係学会編『関係』、不昧堂出版</p> <p>【学習する上での留意点】発達するということはどういうことなのかについて考察する。</p>
3. テーマ	乳児の自発的行動と関係性の発達
	<p>【学習の目標】関係性の発達における乳児の自発的行動、および親のかかわり、情緒的絆の育みを理解する。</p> <p>【学習の内容】1. 関係性の発達における乳児の自発的行動を理解する。 2. 関係性の発達における親の育児行動、相互の情緒的絆の育みを理解する。</p> <p>【キーワード】未成熟さ／絆形成／育児行動／関係の育み／乳児の模倣と偶発性／情動調整</p> <p>【学習の課題】関係性の発達における乳児の自発的行動、および親の養育行動、情緒的絆の育みを理解し説明する。</p> <p>【参考文献】 吉川・松井『人間関係の理解と心理臨床—家庭・園・施設・職場の問題解決のために』慶應義塾大学出版会 D.N.スターン『乳児の対人世界』小此木啓吾（訳）岩崎学術出版社、 F. A. ペンダーセン（編）『父母子関係の心理学』依田明（監訳）新曜社</p> <p>【学習する上での留意点】乳児期の親子間の相互作用を理解する。</p>
4. テーマ	アタッチメント理論の理解①
	<p>【学習の目標】アタッチメント理論の基本的理解を深め、乳児の行動レベルのアタッチメント測定法を理解する。</p> <p>【学習の内容】1. アタッチメント理論の基本的理解を深める。 2. 乳児の行動レベルのアタッチメント測定法を理解する。</p> <p>【キーワード】アタッチメント／安全基地／ストレンジ・シチュエーション法</p> <p>【学習の課題】アタッチメント理論の基本的理解を深め、乳児の行動レベルのアタッチメント測定法を理解し説明する。</p> <p>【参考文献】 吉川・松井『人間関係の理解と心理臨床—家庭・園・施設・職場の問題解決のために』慶應義塾大学出版会 J.ボウルビ『母子関係の理論Ⅰ～Ⅲ』、黒田実郎（訳）、岩崎学術出版社、 D.オッペンハイム・D.F.ゴールドスミス編『アタッチメントを応用した養育者と子どもの臨床』ミネルヴァ書房、</p> <p>【学習する上での留意点】アタッチメント理論の基本的理解を深める。</p>
5. テーマ	アタッチメント理論の理解②
	<p>【学習の目標】アタッチメント理論の基本的理解を深め、成人のアタッチメント経験と子どもの養育との関連を考える。</p> <p>【学習の内容】1. アタッチメント理論の基本的理解を深める。 2. 成人のアタッチメント経験と子どもの養育との関連を考える。</p> <p>【キーワード】成人のアタッチメント／アタッチメントの伝達／アタッチメントと障害/子どもの養育</p> <p>【学習の課題】アタッチメント理論の基本的理解を深め、親子関係とアタッチメント形成を理解し、心理臨床の基礎を学ぶ。</p> <p>【参考文献】 吉川・松井『人間関係の理解と心理臨床—家庭・園・施設・職場の問題解決のために』慶應義塾大学出版会 J.ボウルビ『母子関係の理論Ⅰ～Ⅲ』、黒田実郎（訳）、岩崎学術出版社、 D.オッペンハイム・D.F.ゴールドスミス編『アタッチメントを応用した養育者と子どもの臨床』ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】アタッチメント理論の発展的学習に心掛ける。</p>
6. テーマ	幼児期の発達と臨床的課題の理解と問題解決に向けて①
	<p>【学習の目標】幼児期の発達と臨床的課題の理解と問題解決について考える。</p> <p>【学習の内容】1. 幼児期前半の発達と臨床的課題の基本的理解を深める。 2. 幼児期前半の発達臨床課題のなかで、しつけをめぐる問題とその解決について考える。</p> <p>【キーワード】幼児期前半の発達/しつけ/親の養育態度とかかわり方/しつけと虐待</p> <p>【学習の課題】幼児期の発達全体とそのなかでの幼児期前期の発達課題と臨床的課題と養育者のかかわり方を理解する。</p> <p>【参考文献】 吉川・松井『人間関係の理解と心理臨床—家庭・園・施設・職場の問題解決のために』慶應義塾大学出版会 E.H.エリクソン『自我同一性』小此木啓吾（訳編）、誠信書房、 赤井美智子、神田久男、春原由紀、萩原英寿、吉川晴美『子どもの発達と心理臨床』樹村房</p> <p>【学習する上での留意点】幼児期の発達の理解アタッチメント理論の発展的学習に心掛ける。</p>
7. テーマ	幼児期の発達と臨床的課題の理解と問題解決に向けて②
	<p>【学習の目標】幼児期転換期の発達とその臨床的課題と問題解決について考える。</p> <p>【学習の内容】1. 幼児期転換期の発達の特徴と臨床的課題を理解する。 2. 人間関係の危機と問題解決の方法を学ぶ。</p> <p>【キーワード】自我の芽生え、第一次反抗期、親子関係の危機、兄弟・仲間関係</p> <p>【学習の課題】幼児期転換期の発達の特徴と臨床的課題を理解し、臨床的課題の問題解決の方法を学ぶ。</p> <p>【参考文献】 吉川・松井『人間関係の理解と心理臨床—家庭・園・施設・職場の問題解決のために』慶應義塾大学出版会 E.H.エリクソン『自我同一性』小此木啓吾（訳編）、誠信書房、 赤井美智子、神田久男、春原由紀、萩原英寿、吉川晴美『子どもの発達と心理臨床』樹村房</p>

	【学習する上での留意点】 発達の質的転換についての理解を深める。
8. テーマ	幼児期の発達とその臨床的課題の理解と問題解決に向けて③
	<p>【学習の目標】 幼児期後半の発達とその臨床的課題と問題解決について考える。</p> <p>【学習の内容】 1. 幼児期後半の発達の特徴と臨床的課題を理解する。 2. 遊びと仲間関係の形成・危機、発展のプロセスを理解する。 3. 個人と集団の関係を理解し、周辺にいる子どもへの援助のしかたを考える。</p> <p>【キーワード】 遊び、仲間関係の形成といざこざ、集団の周辺・境界領域</p> <p>【学習の課題】 子どもの遊びにおける仲間関係の発達、個人と集団の関係を理解する。</p> <p>【参考文献】 吉川・松井『人間関係の理解と心理臨床—家庭・園・施設・職場の問題解決のために』慶應義塾大学出版会 E.H.エリクソン『自我同一性』小此木啓吾（訳編）誠信書房、 赤井美智子、神田久男、春原由紀、萩原英寿、吉川晴美『子どもの発達と心理臨床』樹村房、 武藤安子・吉川晴美・松永あけみ『家庭支援の保育学』建帛社、 クーパー・シュミット・ダッジ（編）中澤潤（監訳）『子どもの仲間関係 発達から援助へ』北大路書房</p> <p>【学習する上での留意点】 個人と集団の関係を理解する。</p>
9. テーマ	今日の子どもをめぐる問題（発達障害、虐待の問題）
	<p>【学習の目標】 今日の子どもをめぐる問題（発達障害、虐待の問題）についての理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 1. 今日の子どもをめぐる危機、問題を理解し、人間関係力とレジリエンスについて考える。 2. 発達障害、虐待の問題についての理解を深める。</p> <p>【キーワード】 発達障害／虐待／いじめ／人間関係力とレジリエンス</p> <p>【学習の課題】 子どもの人間関係の危機、発達障害や虐待の問題を理解し、その対応力について学ぶ。</p> <p>【参考文献】 吉川・松井『人間関係の理解と心理臨床—家庭・園・施設・職場の問題解決のために』慶應義塾大学出版会（第2章） 誠信書房、赤井美智子・神田久男・春原由紀・萩原英寿・吉川晴美『子どもの発達と心理臨床』樹村房、 杉山登志郎『発達障害の子どもたち』講談社現代新書、 森則夫他編著『臨床家のための DSM-5 虎の巻』日本評論社、 春原由紀『子ども虐待としての DV-母親と子どもへの心理臨床的援助のために』星和書店、 セルジュ・ティスロン『レジリエンス:こころの回復とはなにか』阿部 又一郎（訳）白水社</p> <p>【学習する上での留意点】 子どもをめぐる特に人間関係の危機と問題、その解決の方法についての理解を深める。</p>
10. テーマ	心理臨床（カウンセリング）の理論と方法①
	<p>【学習の目標】 心理臨床（カウンセリング）の理論と方法の基本について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 1. 心理臨床（カウンセリング）の理論と方法について基本的知識を得る。 2. 精神分析的方法について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 親子関係／無意識／治療過程／移行対象</p> <p>【学習の課題】 精神分析的方法の視点から親子関係の改善への示唆を得る。</p> <p>【参考文献】 吉川・松井『人間関係の理解と心理臨床—家庭・園・施設・職場の問題解決のために』慶應義塾大学出版会（第2章） 赤井美智子・神田久男・春原由紀・萩原英寿・吉川晴美『子どもの発達と心理臨床』樹村房、 ジグムント・フロイド『精神分析入門』（訳）井村垣郎、馬場謙一、日本教文社、 河合隼雄『臨床心理学ノート』金剛出版、 グレイム・ミュージック（著）/鶴飼奈津子（監訳）『子どものこころの発達を支えるもの アタッチメントと神経科学、そして精神分析の出会いとところ』誠信書房、 日本関係学会編『関係＜臨床・教育＞』不昧堂出版</p> <p>【学習する上での留意点】 子ども心理臨床と関連して精神分析的方法について理解する。</p>
11. テーマ	心理臨床（カウンセリング）の理論と方法②
	<p>【学習の目標】 心理臨床（カウンセリング）の理論と方法について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 1. 心理臨床（カウンセリング）の理論と方法について基本的知識を得る。 2. ロジャースのカウンセリング、認知行動療法について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 人間性心理学／自己実現／自動思考／こころと身体</p> <p>【学習の課題】 カウンセリング、認知行動療法など、各々の視点から子どもの心理療法について検討する。</p> <p>【参考文献】 吉川・松井『人間関係の理解と心理臨床—家庭・園・施設・職場の問題解決のために』慶應義塾大学出版会（第2章） 赤井美智子・神田久男・春原由紀・萩原英寿・吉川晴美『子どもの発達と心理臨床』樹村房、 C.R. ロジャース『ロジャースが語る自己実現の道』（共訳）諸富祥彦ほか、 坂野雄二『認知行動療法の基礎』日本評論社</p> <p>【学習する上での留意点】 子ども心理臨床と関連してカウンセリング、認知行動療法について理解する。</p>
12. テーマ	心理臨床（カウンセリング）の理論と方法③
	<p>【学習の目標】 心理臨床（カウンセリング）の理論と方法について学ぶ</p> <p>【学習の内容】 1. 心理臨床（カウンセリング）の方法について学ぶ。 2. 行為を通して行う関係状況療法・心理劇について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 関係状況／役割行為／補助自我／自発性・創造性</p> <p>【学習の課題】 グループアプローチ、劇的方法について具体的事例を通して特色を学ぶ。</p> <p>【参考文献】 吉川晴美・松井知子『人間関係の理解と心理臨床—家庭・園・施設・職場の問題解決のために』慶應義塾大学出版会 松村康平『臨床心理学の方法』『臨床心理学』朝倉書店、 J.L.モレノ『サイコドラマ—集団精神療法とアクションメソッドの原点』、 G.A.ロイツ『人生を舞台に—モレノの継承と発展』野村訓子（訳）関係学研究所、 松村康平『人間関係学』関係学研究所、 日本関係学会編『関係＜臨床・教育＞』不昧堂出版</p>

	【学習する上での留意点】心理劇など、実際に役割を取り、役割交代、補助自我体験など、ふるまいながら理解する。
13. テーマ	心理臨床（カウンセリング）の理論と方法④
	<p>【学習の目標】心理臨床（カウンセリング）の理論と方法について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】1. 心理臨床（カウンセリング）の方法について学ぶ。 2. 行為を通して行う関係状況療法・心理劇について具体的事例を通して体験しながら学ぶ。</p> <p>【キーワード】監督・観客・補助自我・演者・舞台／役割交代／集団精神療法</p> <p>【学習の課題】遺伝の観点から人間の養育行動を理解し考察する。</p> <p>【参考文献】吉川晴美・松井知子『人間関係の理解と心理臨床—家庭・園・施設・職場の問題解決のために』慶應義塾大学出版会 松村康平「臨床心理学の方法」『臨床心理学』朝倉書店、 J.L.モレノ『サイコドラマ—集団精神療法とアクションメソッドの原点』、 G.A.ロイツ『人生を舞台に—モレノの継承と発展』野村訓子（訳）関係学研究所、 松村康平『人間関係学』関係学研究所、 日本関係学会編『関係＜臨床・教育＞』不昧堂出版</p> <p>【学習する上での留意点】心理劇を行い、問題解決を考える。</p>
14. テーマ	子どもおよび保護者・家族とかわる技法
	<p>【学習の目標】子どもの保護者、家族との関係を捉え、問題解決に向けて、そのかわり方について検討する。</p> <p>【学習の内容】1. アタッチメントと早期の体験、及び養育の過程の影響を理解する。 2. ここでのアセスメント、及びその後の変化の可能性を考察する。</p> <p>【キーワード】アタッチメントと早期の体験の影響／子ども時代のトラウマと良い関係体験／どのような変化が可能なのか</p> <p>【学習の課題】アタッチメントと早期の体験の影響とその変化の可能性について考察する。</p> <p>【参考文献】吉川晴美・松井知子『人間関係の理解と心理臨床—家庭・園・施設・職場の問題解決のために』慶應義塾大学出版会 松村康平「臨床心理学の方法」『臨床心理学』朝倉書店、 J.L.モレノ『サイコドラマ—集団精神療法とアクションメソッドの原点』、 G.A.ロイツ『人生を舞台に—モレノの継承と発展』野村訓子（訳）関係学研究所、 松村康平『人間関係学』関係学研究所、 日本関係学会編『関係＜臨床・教育＞』不昧堂出版</p> <p>【学習する上での留意点】これまでの学習の総まとめを行い、実際にロールプレイ・心理劇を行い、保育実践への応用を展望する。</p>
15. テーマ	心理臨床（カウンセリング）の専門性とチームワーク
	<p>【学習の目標】子どもの心理臨床の知識を活かし、周囲との連携、チームワークの取り方を学び保育実践への応用を検討する。</p> <p>【学習の内容】1. 自己理解を深め、保育実践に求められているチームワーク、心理臨床援助者の専門性を自覚する。 2. これまで学んだことを統合的に理解し、子どもおよび保護者とかわる技法を検討しまとめる。</p> <p>【キーワード】チーム、かわる技法、自己理解、心理臨床の援助者の専門性、倫理性</p> <p>【学習の課題】これまで学んだことを統合的に理解し、子ども理解や援助にどう役立てるか考察する。</p> <p>【参考文献】吉川晴美・松井知子『人間関係の理解と心理臨床—家庭・園・施設・職場の問題解決のために』慶應義塾大学出版会、 松村康平「臨床心理学の方法」『臨床心理学』朝倉書店、 武藤安子・吉川晴美・松永あけみ編著『家庭支援の保育学』建帛社、 日本関係学会編『関係＜臨床・教育＞』不昧堂出版</p> <p>【学習する上での留意点】理論と実践の統合さらに援助者としての自己成長を心掛ける。</p>